関根・高橋V

男子3年複

ヨネックス杯全十勝高校夏季バドミントン

バドミントンのヨネックス杯争奪全十勝高校夏季大会（高体連十勝支部、十勝バドミントン協会主催）が7月23、24の両日、よつ葉アリーナ十勝（帯広市総合体育館）で行われた。新型コロナウイルスの影響で5月の高体連支部大会の中止を受け、今大会は特別に3年生の部を設けた。個人戦男女シングルス（単）、ダブルス（複）の計6種目で実施し、男子3年複は関根陸・高橋然組（帯大谷）が優勝。関根は同単も制し2冠を果たした。女子同複は石原聡弓・中村来未組（同）が頂点に立った。石原も単との2種目制覇となった。1、2年生対象の男子1部複は池田侑輝・岩間琉哉組（帯大谷2年）が制した。池田は2年連続の単複2冠も達成。女子同単は濱下亜美（帯大谷）が1年生女王に輝き、複は江口遥・柏村茉那組（帯南商2年）が優勝した。（北雅貴、大野篤志）

【男子3年ダブルス】最終試合で気迫のこもったスマッシュを放つ帯大谷の高橋然（奥）。初めて組んだ関根陸との息も合い優勝を果たした。関根はシングルスとの2冠

接戦で攻め貫く 快進撃に充実感

男子3年複準V 林・広尾組

○…男子3年生の部で林孝恒・広尾海周組（帯大谷）が準優勝する健闘を見せた。広尾は「自分たちは部で5、6番目。全力は出せた」と充実感を漂わせた。

予選リーグは危なげなく2連勝し決勝（1位）リーグへ。1試合目に、チームメートの佐々木蓮太・清水誠組と対戦。これまで勝った経験はほぼなかったが、2ゲームともジュースにもつれ込む接戦を制した。林が前衛、広尾が後衛でポイントを奪う得意の展開に何度も持ち込んだ。広尾は「技術がない分、勢いに乗って攻めていくスタイル。長所を生かせた」と話した。

全国霧散も部員の心つなぐ

帯大谷主将・副主将

初めてペアを組んだ関根陸主将と高橋然副主将。帯大谷を引っ張ってきた2人が気迫を込めたプレーで、3年生の部の頂点に立った。小学3年からバドミントンを始めて以来、大会で初優勝した高橋は「うれしい気持ちしかない。自分の力を出し切れた。最後まで攻められた」と笑みを浮かべた。競技は高校までと決めている高橋の喜ぶ姿を見て、関根も満足そうだった。

普段はそれぞれ2年生と組んでおり、大会1週間前ぐらいにペアでの練習を始めた。帯大谷の3組による決勝リーグは、2試合ともファイナルゲームにもつれ込む接戦となった。

1試合目の佐々木蓮太・清水誠組戦は、第1ゲームを一進一退の攻防からジュースの末に25―23で物にした。第3ゲームは中盤までに一時最大7点差と大きくリードされながら、終盤に怒濤（どとう）の反撃。関根が前衛で鋭いドライブ、高橋もジャンピングスマッシュを決めるなど、13―18から4連続得点して追い上げた。19―20とマッチポイントを握られる窮地から、3連続ポイントで逆転。最後の試合は第2、3ゲームを奪取、勝利を収めた。

新型コロナウイルスにかき回された半年間だった。1月の道高校新人大会団体戦男子で3年ぶり4度目の優勝。個人戦もダブルスで関根・池田侑輝（2年）組、シングルスで池田が制し、3月末の全国高校選抜選手権大会の出場権を得ていたが、大会がなくなった。

4月中旬には全国高校総体（インターハイ）や道高体連の中止も決定。練習を中断する期間も長く、高い目標を掲げてトレーニングに励んできていただけにショックは大きかった。何のために部活をするのか選手たちは迷った。

相澤俊彰監督らの話を聞き、バドミントンを全力でやれる時期は高校生の一時期しかないと感じ、競技の奥深さを追求し楽しもうと切り替えるのに必死だった。

ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を使って皆で筋力トレーニングをしたこともある。関根は高橋と話し合いながら、全員の気持ちの共有に心を注いだ。関根は「すごくつらいことが多かったが、みんなで乗り越えられたのがうれしい。友情が深まった」と主将として胸を張った。

かちまいスポーツ

【女子3年ダブルス・決勝】安定したプレーで危なげなく優勝を飾った帯大谷の石原聡弓・中村来未組（左から）

帯大谷 石原・中村 女子3年複 圧倒

ナンバー1証明 内容「思い通り」

石原・中村組

○…女子3年はダブルスを制した石原聡弓・中村来未組がシングルスでも石原が優勝、中村が準優勝と十勝では抜き出た実力を発揮した。

目標としてきた高体連が中止となり一時、大きなショックを受けたが、中村は「残り少ないが大会はある。全力を出し切る」と気持ちを切り替えて練習に打ち込んできた。

久しぶりの大会に石原は「緊張すると思っていたが、自分のペースで思い通りのプレーをすることができた」と、技術とともにこれまでの歴戦で培ったハートの強さも維持し続けている。

続けて良かった

女子3年ダブルス準優勝の白木亜実・山本めぐみ組（江陵）の話　部員が4人しかおらず、大会でいろいろな人と試合ができて楽しかった。続けてきて良かった（白木）。ナンバーワンペアと試合ができてうれしかった。自分たちらしいバドミントンをやって、笑顔で終われた（山本）。

男子3年上位入賞者

優勝の懸かった最終戦は第1ゲームを奪い、第3ゲームも17―16とリード。最後は力尽きたが熱戦を繰り広げた。林は「いいラリーができた。足も動き楽しかった」と、流れる汗を拭いながら笑った。

小手先に頼った

男子1部単、複2冠の池田侑輝の話　課題が多く見えた。全体的にタッチが遅く、フットワークも全国レベルから見たらスピードがなく、小手先に頼っていた。全日本総合選手権北海道予選に2種目で出場させてもらえることになっており、ダブルスは関根（陸）先輩と組んでの最後の大会となる。納得のいく結果を出せるようにしたい。

女子3年上位入賞者

【女子1部決勝】高校生になって初の大会で頂点に立った濱下亜美（帯大谷）

声で落ち着けた

女子1部単優勝の濱下亜美の話　試合の最初の方は失点を1桁に抑えることができたが、勝ち上がるにつれて失点が多くなり、決勝も羽根のコントロールに苦しんだ。コーチに入った先輩の声掛けで落ち着き、うまくプレーすることができた。高校生となって上級生とのパワーの違いやゲームの組み立てなどの差を感じる。試合中にミスや課題を調整できるようになりたい。

男子1部上位入賞者

女子1部上位入賞者

江陵 感謝で幕

実力校 今年度で閉校

今大会を最後に部活を終える江陵バドミントン部の田代浩司監督と部員10人があいさつした

今年度で閉校となる江陵。バドミントン部の歴史にも幕が下りた。表彰式終了後に最後の部員となった3年生全員がコートに一列に並び、感謝のあいさつも行った。

前身の池田西高時の1965年ごろに創部。78年に個人戦男子ダブルスで初めてインターハイに出場し、団体戦では2014年の全国高校選抜大会にも駒を進めた。田代浩司監督は「歴代部員が一生懸命に継続してくれたのが結果にもつながった」と話した。

大泉颯舞主将と齊藤健太副主将はダブルスを組んで出場。大泉主将は「高体連がなくなり、練習をする意味があるのかと思った時期も。ただ多くの方たちにこの大会をつくってもらい、目標ができた。試合ができてうれしかった」としみじみ。齊藤副主将は「練習ではこまめに換気し、小走りで移動するなど少しの時間も無駄にしないように大切にしてきた」と振り返り、「大会ができることに感謝し、試合では楽しくラリーができた」と笑顔を見せた。

個性の強かった男子6人、女子4人。高校卒業後は離ればなれになるが、大泉主将は「連絡を取り合って、いつかまた集まってバドミントンをしたい」と3年間一緒に過ごした仲間との絆を胸に刻んでいた。

社会人サッカー リーグ戦

1部に8チーム 今季リーグ開幕

サッカーの第48回十勝社会人リーグ（十勝社会人サッカー連盟主催）が2日、十勝サッカー場で開幕した。1部に8チーム、ミドルに7チームが出場し、9月27日までの計7節でそれぞれ総当たりのリーグ戦を繰り広げる。（2日）

◇1部・第1節

帯広蹴球団 5（1―1、4―0）1 ACMalicia

◇7位決定戦

佐藤 2（1―1、2―0）1 内田

▼決定戦

佐内田藤藤田 2（0―0、2―0）0 熊谷新井

▽準決勝

濱谷 2（0―0、2―0）0 新井

濱下 2（0―0、2―0）0 柏村

▽3位決定戦

江口 2（0―0、2―0）0 上野

▽決勝

野村 権途中葉 柏村

◇1部▽準々決勝

【男子】＜シングルス＞

池田侑輝（帯大谷）2―0 越川匠（帯柏葉）

宇佐見慈（帯大谷）2―0 岩間琉哉（帯大谷）

砂原泰斗（帯大谷）2―0 瀬藤智史（帯大谷）

▽5位決定戦▼1回戦

岩瀬 2（1―1、2―1）1 川村

▼決定戦

岩間 2―0 瀬藤

▽7位決定戦

岩川 2―1 越川

▽準決勝

池田侑 2―0 宇佐見

砂原 2―0 池田泰

▽3位決定戦

池田原 2―0 宇佐見

▽決勝

池田侑 2（2―2、2―0）0 砂原

◇2部▽準決勝

露木悠斗（帯柏葉）2―1 井上孔輝（帯緑陽）

竹田任希（池田）2―0 高田圭吾（清水）

▽決勝

竹田 2―0 露木

◇3年生▽準々決勝

関根陸（帯大谷）2―0 高橋然（帯大谷）

林孝恒（帯大谷）2―1 広尾海周（帯大谷）

清水誠（帯大谷）2―0 西川歩輝（帯大谷）

佐々木蓮太（帯大谷）2―1 森章馬（帯大谷）

▽準決勝

清水 2―1 林

関根 2―1 佐々木

▽決勝

関根 2（21―17、11―19）1 清水

◇ダブルス▽

◇1部▽準々決勝

池田侑輝・岩間琉哉（帯大谷）2―0 末永健太郎・山田偉央（帯工）

宇佐見慈・高橋智玖（帯大谷）2―1 越川匠・廣瀬大城（帯柏葉）

宇佐見慈・宇佐見慧（帯大谷）2―1 関根一誠・瀬藤智史（帯大谷）

砂原泰斗・川村柊斗（帯大谷）2―0 三好海智・及川令穏（帯工）

大久保真人（帯大谷）

▽5位決定戦▼1回戦

関根・高橋（帯大谷）2（21―18、25―20）1 佐々木蓮太・清水誠

▼順位＝①関根陸・高橋然組2勝②林孝恒・広尾海周組1勝1敗③佐々木蓮太・清水誠組2敗

【女子】＜シングルス＞

◇1部▽準々決勝

濱下亜美（帯大谷）2―0 新井留奈（帯工）

柏村茉那（帯南商）2―1 佐藤柚夕（帯大谷）

上野稜佳（帯大谷）2―0 熊谷星来（帯南商）

江口遥（帯南商）2―1 内田千晴（帯三条）

▽5位決定戦▼1回戦

佐藤 2（1―1、2―0）0 内田

▼決定戦

佐藤田藤 2（0―0、2―0）0 熊谷新井

▽7位決定戦

佐藤 2（1―1、2―0）0 内田

▽準決勝

濱下 2（0―0、2―0）0 柏村

熊谷 2（0―0、2―0）0 新井

▽3位決定戦

江口 2（0―0、2―0）0 上野

▽決勝

野村 権途中葉 柏村

◇2部▽準決勝

関根陸（帯大谷）2―1 高橋然（帯大谷）

関根・高橋 2（21―18、21―16）1 林孝恒・広尾海周（帯大谷）

▽決勝

関根 2（22―20、25―23）1 佐々木蓮太・清水誠

◇3年生▽1位（決勝）リーグ

佐々木蓮太・清水誠 1

▽2位

新田拓真・下亮太郎（帯三条）2―0 奥野澪慈・鹿野雅貴（芽室）

▽3位

松村蒼一朗・しゅうわき千聖（帯三条）2―0 稲見柊哉・六郎田紘希（帯柏葉）

▽4位

松村・しゅうわき 2―0 新田・下

◇2部▽準決勝

新田拓真・下亮太郎（帯三条）2―0 奥野澪慈・鹿野雅貴（芽室）

松村蒼一朗・しゅうわき千聖（帯三条）2―0 稲見柊哉・六郎田紘希（帯柏葉）

▽決勝

松村・しゅうわき 2―0 新田・下

◇3年生▽1位（決勝）リーグ

佐々木蓮太・清水誠 1

▽2位

関根陸（帯大谷）2―1 高橋然（帯大谷）

▽3位

林孝恒・広尾海周（帯大谷）2―0 佐々木蓮太・清水誠

▽4位

関根・高橋 2（22―18、25―20）1 林孝恒・広尾海周（帯大谷）

▽決勝

関根 2（22―20、23―20）0 佐々木蓮太・清水誠

◇7位決定戦

関根・高橋 2（21―18、19―16）1 林孝恒・広尾海周（帯大谷）

▽決勝

関根 2（22―20、25―23）1 佐々木蓮太・清水誠